

令和 3 年 10 月 31 日
(2021 年)

吹田市立博物館
館長 高橋 真希 様

吹田市立博物館協議会
委員長 伊藤 廣之

令和元年度（2019 年度）吹田市立博物館事業評価報告書について（報告）

吹田市立博物館の令和元年度事業評価について吹田市立博物館協議会では令和 3 年 8 月 20 日および令和 3 年 10 月 27 日において慎重に審議した。下記のとおり吹田市立博物館が目指す活動目標に沿って、その結果について報告する。

記

- 1 提出する報告書 令和元年度（2019 年度）吹田市立博物館事業評価報告書

以上

令和元年度(2019年度)事業評価

(大項目) 1. 地域の歴史・文化・自然遺産を守り、未来へ伝える博物館									
目標		吹田市に残された大切な歴史・文化・自然遺産などの地域の文化に関する資料を継続的に収集、整理し、市民共有の知的資産として未来にも利用できるように保管管理します。また、地域の歴史と文化に関して調査研究を推進し、その研究成果が市民の知的財産として活用されるようにします。							
(中項目)①資料の収集・保管・活用				自己評価点	【自己評価】	自己評価点	【外部評価】	外部評価点	
(小項目)	(重点項目) a. データベースの構築	指標・目標	データベース構築の進捗度	2	《資料の収集・保管・活用》 資料データベースの整備は本年度も進展していない。各分野においてデータベースの必要性は認識しているものの、館全体での意見の集約にはいたらなかった。今後も実効性のある計画を策定していくよう努める。 本年度の資料収集の特色は、民俗資料として大正新興芸術運動の流れをくみ、関西の人形劇文化の一翼を担った市内の人形劇団「出口座」の貴重な資料(人形・脚本・写真等)658点を収集したことである。また、市内で唯一残っていた井路舟の保存のため所管換えにより収集した。過書船関連資料の寄託を受けた。 新規収蔵資料を対象に年2回の燻蒸庫燻蒸と、本年度は収蔵庫燻蒸を未実施年度のため、館内の棲息昆虫・黴菌等のモニター調査を2回実施、良好な結果を得ている。	6	事業報告書や事業点検・評価チェックシートに、博物館評価・点検体制そのものについての記載がないが、触れておく必要がある。博物館評価・点検体制それ自体も、評価の対象となる。 資料データベースの整備には進捗が見られなかった。手つかずのままになっている状態をまず改善する必要がある。収集資料を市民の共有財産とするため、資料のデジタル化とデータベースの構築・公開が必須である。資料データベースの構築を速やかに進めていくことが求められる。豊富な資料もデータベース化を早く進めていくことにより、更に効率的な運用が可能になるのではないかなと思う。資料データベース化の進展を望む。 その他、基本事業については着実に務めを果たされている。収蔵資料に対して適切な虫害対策が行われているといえる。資料収集も着実に進められた。中でも人形劇団「出口座」の資料収集は評価に値する。当館のテーマとして新しいものと思われ、今後の活用に期待したい。	5.9	
		実績	自己評価欄に記載						
	(基本事業) b. 資料の収集	指標・目標	収集方針に基づいた資料収集を行い、適切に整理・登録を行っているか。	7					
		実績	自己評価欄に記載						
	(基本事業) c. 収蔵環境の維持	指標・目標	新規収集資料燻蒸回数(2回/年) 館内環境調査回数(2回/年)	8					
		実績	新規収集資料燻蒸回数 2回 館内環境調査回数 2回						
(中項目)②調査研究					《調査研究》 館蔵紀年銘民具の調査成果をミニ展示に反映させた。山田村文書の資料目録を完成させた。神崎川展に関連して、橋本三男家文書、藤本家の過書株名跡相続図等の寄託を受けた。橋本義敏家文書の借用した分については資料目録を完成させた。早田家文書については調査カード作成中である。神崎川関連資料調査はリニューアル計画の検討材料とできた。 令和2年度春季特別展「神崎川展」開催に向けて、「神崎川」をテーマにして6回にわたって実施した。各分野の調査・研究の成果を確認し、展示として仕上げることを目指した。展示主題への学芸員全員の共通認識を深める効果があった。				
(小項目)	(基本事業) a. 地域史に関する調査研究	指標・目標	調査研究件数 5件	7			《調査研究》 歴史、民俗を中心にそれらに関する資料が着実に積み増しされている。地域的にも西尾家及び蔵人稲荷神社所蔵美術の調査、千里ニュータウン関連及び市内小中学校校歌その他の諸調査、山田村文書・橋本三男文書・藤本家過書株名跡相続図受託、橋本義敏家・早田家文書等の資料整理など資料の充実化が図られている。これらの豊かな資料が、「神崎川」関連資料の諸展示などに有機的につながっていると思われる。 大項目にある自然遺産について、市内の自然環境は気候の影響や開発により激しく変化し、それに伴い、いま調査し記録し保全しなければ失われていく希少種もある。ヒメボタルの保全だけではなく、また紫金山にとどまらず市内の自然環境の現状調査や保全について、博物館の果たすべき役割があるのではないかな。検討して今後の事業や博物館リニューアルに活かしていただきたい。 学芸研究会がテーマを決めて6回開催されたこと、また共通認識を深めて展示へ結び付けたことを評価する。ただ、テーマが館の展示に即したものに限定され、展示実務者会議的なものになっているという印象がある。研究会発足の趣旨をふまえ、館員それぞれの専門研究を報告したり、大局的な観点から博物館論・学芸員論を論じ合ったりするなど、むしろ具体的な展示計画とは離れた議論もできる場として位置づけ直す必要があるように思われる。		
		実績	地域資料調査 5件						
	(基本事業) b. 博物館運営に関する調査研究	指標・目標	調査研究件数 3件	7					
		実績	調査研究件数 2件						
	(基本事業) c. 学芸研究会	指標・目標	学芸研究会実施回数 (2回/年)	8					
		実績	学芸研究会実施回数 6回						

2. 地域文化の情報発信拠点としての博物館									
目標	地域の歴史と文化を紹介する常設展示と幅広い利用者層が楽しみ、参加、体験できる企画展示により市民の多様な学習活動に応じるとともに、市民の多様な自主的学習を支援するための生涯学習の拠点とします。また、地域の文化の情報拠点の役割を担い、他の博物館、文化施設とも広く連携を図ります。そのため、博物館の情報公開性を高め、地域文化に関する資料や博物館運営に関する情報を迅速に発信公開します。								
(中項目)①常設展示				自己評価点	【自己評価】	自己評価点	【外部評価】	外部評価点	
(小項目)	(重点項目) a. リニューアル	指標・目標	リニューアル計画の進捗度	7	《常設展示》 吹田市の歴史を考えるうえで重要な神崎川について特別展準備を通じてであるが、各分野の素材を共有情報として得ることで常設展示リニューアル計画検討のよい素材となった。展示替えとしては、さわるコーナーに常設の体験展示としてイタナンバ(田下駄)を設置し、吹田の美術コーナーの掛軸2幅を展示替え 《企画展示》 令和元年度～令和5年度の企画展示案の立案。5年間の企画展示案を立案して中期の展示計画を進めている。 平成31年3月30日付けで西村家より西村公朝作品20点の寄贈を受け、企画展として「西村公朝 作仏のこころ」を開催。その他応接室ギャラリーおよびロビーさわる展示コーナーにて常設展示を実施。令和2年度以降も企画展または特別展において定期的な公開活用を図る計画である。 《地域学習の支援》 イベント回数は減少したが、主たる要因は夏季展示のイベントを見直し、内容を精査したためである。夏季展示のテーマに即したイベントを中心に組むようにした。企画展示関連や古文書講座などのイベントは例年どおり実施したが、令和2年2月20日に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため市主催イベント中止の方針が出されたため、特別企画関連イベント4回が中止となった。レファレンス数は減少傾向であるが、観覧者による質問は増えた。特に特別展開催期間に展示内容に関するものが多かった。来館者や電話による問い合わせ内容は昨年度と同様の傾向である。 《情報発信》 アクセス数は大きく減少した。原因の解明は難しいところではあるが、情報発信のツールとして工夫が必要であろう。ホームページ全体、あるいは各ページごとの見やすさ、ページ間の移動など情報を取りにくる閲覧者のための目線で検討していくことが求められる。 フェイスブック投稿回数は指標をやや下回った。投稿内容は展覧会やイベントの広報である。市公式フェイスブックのため他部署の記事に紛れてしまうためか、来館者の増加につながっているとは言いがたい。今後は独自のフェイスブックも考慮していくことも必要であろう。 テレビ・新聞による取材や報道は23件であった。展覧会の情報はその都度、市記者クラブを通じて、または報道各社にダイレクトで案内を送付していて、取材・報道の内容は特別展等に因んだものが主である。	8	《常設展示》 常設展示のリニューアルを検討するうえで、展示テーマに関する様々な展示資料情報を収集し、共有することが必要である。神崎川をテーマとする特別展の開催準備において、神崎川という切り口で、地域の独自性を生かした展示のあり方を考え、各分野の資料情報を共有化できたことは、展示のリニューアルを進めていくうえで有意義なステップになったと評価できる。共有情報をもっと深めて、より良い展示になるように目指してほしい。 さわる展示では、美術と民俗の分野で展示資料の入れ替えがおこなわれ、新たな資料の展示を実施することができた。現在となつてはほとんど忘れ去られ、それを履く機会もないイタナンバを設置したことは評価できるが、展示の定期的な入れ替えと告知方法に工夫が必要と思われる。 《企画展示》 地域文化に根差したテーマを展示し、またイベントや講座も含め体験的に味わうことができている。特別展および企画展示は大変充実しており、高く評価できる。良い展示とイベントをおこなっているの、集客に繋がるよう、課題となっている情報発信(広報)面での工夫を期待する。特に貴志康一、大塩平八郎と地元にも縁が深く、それでいて展示法に工夫も必要なテーマで吹田市立博物館の力を発揮されたと思う。時事に対応した展示(ミニ展示)ができた点も評価する。情報発信拠点として十分に機能を発揮していると評価できる。 西村公朝作品は、当館所蔵資料を特色づけるものであるが、さらに20点の作品が西村家より寄贈されたこと、またそれを展示・活用したことは大いに評価できる。展示解説を市民病院へ中継したことはその後続く試みとなった。 イベントの開催は、企画展示関連や古文書講座など定番のイベントは維持しつつ、夏季展示のイベントを中心に内容精査がおこなわれ、メリハリをつけたイベントの開催となった。コロナ禍により2月以降の各種イベントが中止になったが、全体としてはイベント活動は活発であったといえる。	7.6	
		実績	自己評価欄に記載						
	(重点項目) b. さわる展示	指標・目標	「さわる月間」の開催(1回/年)	6					
		実績	自己評価欄に記載						
(中項目)②企画展示									
(小項目)	(重点項目) a. 特別展等の開催	指標・目標	展示目標は達成できているか。	8					
		実績							
	(重点項目) b. 西村公朝資料の展示と活用	指標・目標	展覧会は実施の有無	9					
		実績	自己評価欄に記載						
	(基本事業) c. 企画展示の中期計画立案	指標・目標	展示の中期計画立案の有無	9					
		実績	立案した						
(中項目)③地域学習の支援									
(小項目)	(重点項目) a. 多様なイベントの実施	指標・目標	イベント回数 105回/年 参加者数 7,657人/年	7					
		実績	イベント回数 107回 参加者数 6,817人						
	(基本事業) b. 出前講座・依頼講座	指標・目標	出前講座回数 37回/年 参加者数 1,270人/年	8					
		実績	出前講座 30回 参加者数 1,439人						
	(基本事業) c. レファレンス業務	指標・目標	レファレンス件数 46件	7					
		実績	レファレンス件数 37件						
(中項目)④情報発信									
(小項目)	(基本事業) a. ホームページ	指標・目標	アクセス数 32,874回/年	8					
		実績	アクセス数 30,050回						
	(基本事業) b. ソーシャルメディアの活用	指標・目標	フェイスブック投稿回数 50回/年	7					
		実績	フェイスブック投稿回数 48回						
	(基本事業) c. 広報の充実	指標・目標	取材・報道件数 16件/年	8					
		実績	取材・報道件数 23件						

3. 市民と協働し、ともに活動する博物館									
目 標		市民が主体的に博物館の活動に参加できる市民参画を推進します。市民の視点に立ち、市民が集い、市民の参加を得て、希望や意見を反映させる市民とともに創る博物館をめざします。そのための博物館のサポーターとしてボランティアをはじめとする博物館を支える多様な人材を組織します。							
(中項目) ①市民参画と協働				自 己 評 価 点	【自己評価】	自 己 評 価 点	【外部評価】	外 部 評 価 点	
(小項目)	(重点項目) a. ボランティア活動の支援	指標・目標	活動人数 401人／年 活動日数 63日／年	8	《市民参画と協働》 ボランティアの活動人数が減じたが、2月以降の新型コロナ感染症拡大による特別企画「むかしのくらしと学校」への学校団体見学の中止のため、そのボランティア活動にも影響があったと思われる。 市民実行委員の人数は半減となった。市民側の諸事情もあるが、参加人数の確保が課題である。活動内容は少数精鋭となったが、これまでの経験者が大半であり、展示企画・準備において熱心に取り組んでいた。 その他の市民参画では、展示事業・共催事業・イベント等の教育普及活動において市民参画による事業を実施した。それぞれの事業・活動で参加された市民の経験値も増えてきており、その内容も充実してきている。市民講師の大半は夏季展示と特別企画に伴うイベントである。市民実行委員による夏季展示イベントの企画のため市民による市民の講師選びの効果が現れている。 アンケートは展覧会ごとに実施、集計を行った。加えて、来館者のニーズを把握するために、企画展「西村公朝」においては、イベント参加者を対象に実施。(参加者520人、回答数89人)回答率17.1%は、来館者向けの7.1%を大きく上回る結果であり、自由記述の内容も豊富でニーズの把握に効果的であった。団体見学の子どもの感想については、引率指導の教員アンケートから知ることができる。大きな満足を得ているようである。 《紫金山公園ビジターセンター》 平成21年度に庁内検討委員会において策定された基本構想に基づき、令和5年度設計、6年度建設の予定で実施計画として要求。結果は「査定せず」。紫金山公園ビジターセンターの建設は財政問題があり課題は多いが、引き続き協議、検討。	8	市民参画と協働による事業は指標をほぼ満たしている。ボランティア活動は、博物館と市民との協働の代表例である。コロナ禍による影響はあったものの、日数・人数ともに指標を上回る活動が展開され、ボランティア活動そのものは活発であったといえる。ただし、活動に対する評価は参加人数だけで判断できるものではなく、活動の質こそが重要である。入館者のボランティアに対する感想や要望などを把握し、問題点の改善に取り組む必要がある。市民のボランティア、実行委員の活動が博物館を盛り上げる一助となっている。市民の参加を促し、協働するために、市民の活動の様子と成果をもっと市民に伝える必要がある。ボランティア同士をつなげ、輪をひろげる取り組みが一層必要に感じる。 市民実行委員会による夏季展示は、実行委員の人数減とはなったが、「自然の中の循環」をテーマとする夏季展示が企画・実施され、活動日数では指標を上回り、来館者アンケートによる満足度も目標値を達成するものとなった。夏季展示実行委員の人数減少が残念であるが、夏季展示をやり遂げたこと、サポートした博物館の努力を評価する。 市民実行委員会方式による夏季展示の準備は、ボランティア活動とならび、館と市民による協働の柱といえる。実行委員の数が半減したというが、周知活動の問題点など、その原因を究明し、今後に生かすべきである。市民の参画意欲を促す内容になっているのかどうか、役立ち感を味わう仕組みになっているのかどうかなどを検討し、今一度、参画した市民から意見等を吸収してそれを運営に活かすようにすべきである。 紫金山公園ビジターセンターの建設に関連して。市内の自然環境は気候の影響や開発により激しく変化し、それに伴い、いま調査し記録し保全しなければ失われていく希少種もある。紫金山にとどまらず市内の自然環境の現状調査や保全について博物館の果たすべき役割があるのではない。市民、市民団体との協働により早急に検討を開始する必要があると思われる。	7.4	
		実績	活動人数 延べ228人 活動日数 延べ30日						
	(重点項目) b. 市民実行委員会による展示事業	指標・目標	実行委員参加人数 22人 実行委員活動日数 49日	8					
		実績	実行委員参加人数 13人 実行委員活動日数 9日						
	(基本事業) c. アンケートの実施	指標・目標	アンケート実施件数 6件	7					
		実績	アンケート実施件数 6件						
	(基本事業) d. 博物館事業への市民の参画	指標・目標	市民講師件数 22人 市民の原稿執筆件数 10件	8					
		実績	市民講師件数 1人 市民の原稿執筆件数 0件						
	(基本事業) e. 市民団体との協働事業	指標・目標	連携事業件数 3件	8					
		実績	連携事業件数 1件						
(中項目) ②紫金山公園ビジターセンターの建設準備									
(小項目)	(基本事業) a. 紫金山公園ビジターセンターの建設	指標・目標	ビジターセンター建設計画の進捗度	3					
		実績	自己評価欄に記載						

4. 社会とともに歩む博物館									
目 標		学校、児童、生徒の利用を促進するため、小中高校の教職員と連携や利用プログラムの開発を行い、子どもたちが博物館に親しむ機会を増やします。また、博物館のもつ高い専門性や豊かな情報を社会に還元することで、地域のイメージアップや学芸員のスキルアップにつなげ、博物館活動にフィードバックさせます。							
(中項目) ①連携				自 己 評 価 点	【自己評価】 北大阪ミュージアム・ネットワーク事業は当館の市民や地域との連携事業の柱となっている。組織の会合、事業の進捗管理、会計事務すべてに渡り会長館・事務局館として事業を進めた。事業資金は文化庁より外部資金を獲得して実施した。ミュージアムメッセはアウトリーチ活動として北大阪のミュージアムの多様性を周知し、地域文化遺産を情報発信するとともに、ネットワークのさらなる充実と強化がはかられた。北大阪の中核館として地域連携を積極的にリードし地域の文化拠点としての地域ミュージアムの役割を果たすことになった。 西国街道連携事業は西国街道沿いの市町の博物館と歴史街道推進協議会が連携する広域連携事業である。今年度はシンポジウム『摂津国絵図と西国街道』にコーディネーターとして参加。リレーウォーク「三国川の古川・古堤防を歩く」を吹田郷土史研究会と共催で実施した。また、事業チラシには展覧会情報を掲示し、スタンプラリーを実施するなど各事業に参加者数、参加者範囲など広域連携ならではの効果がでた。 《学校教育との連携》 特別企画「むかしのくらしと学校」を継続して開催した。学校団体見学にあたって事前に小学校教諭向けに団体見学時の説明会及び見学日抽選を行った。また、特別企画のボランティアに講習会を実施、ボランティア会議では、教員・一般・ボランティアのアンケートをもとに、改善に向けた検討協議を重ねた。小学校団体見学終了後、各校教員にアンケート調査を実施。集計結果は博物館側のコメントを付して全校に送付。 教員研修として教育センターと共催にて「吹田の歴史を学ぶー授業プランづくりを通してー」を実施。参加者 14人。 中学校教材『吹田の歴史にふれてみよう』(第一中学校版)を第一中学校と意見交換会を実施して作成。全生徒に配布。中学校教材は市内の地域を一回りしたので、次年度からの社会科教材の製作に関して社会科教諭との間で印刷物以外のデジタルデータの活用法について協議した。	自 己 評 価 点	【外部評価】 ほとんどの項目において指標・目標を十分に達成している。基本事業については着実に実施されていることを評価する。ただ、大項目の「目標」を読み直すと、下位項目とややずれがあるようにも思われた。相手があることが多く、独自で進められないことも多くあるだろうが、博物館のためになるフィードバックの仕組みができているか、お聞かせいただきたい。 北大阪ミュージアム・ネットワーク事業では、主導的に他ミュージアム等と連携しつつ、前年度に引き続き会長館・事務局館としてメッセとシンポジウムを実施し、地域ミュージアムの連携、地域の文化資源の発信に関して、北大阪の中核館としての役割を果たした。大きな成果を上げたことは大いに評価できる。文化庁補助金を得ることができたことも評価できる。ネットワークの充実と強化の向上に努めている点は評価できる。 毎年実施している特別企画展示「むかしのくらしと学校」を継続し、きめ細かい事前準備のもとに実施したことは大いに評価できる。小学生の親世代はもとより、祖父母世代も体験していないような「むかしのくらし」を体験させる試みを小学校と連携しつつ継続的に行うことは極めて大切なことであり、今後も続けて頂きたい。なお、展示で想定されている「むかし」の時間的範囲は、「現代より前の時代」という、大変広いものである。児童歴史教育論と、時代認識を重視する博物館の考え方をどのようにすりあわせるかが重要な課題と思われる。 学校による博物館利用は、新型コロナ感染症対策のため特別企画展の会期が約1ヶ月短くなったが、19校の団体見学を受け入れた。また出前授業・教員研修も指標を達成することができた。今後の課題として「むかしのくらしと学校」の出前授業を企画しても良いのではないかな。出前といっても直接出向くのではなく、オンラインを活用して博物館を案内しながら関連付けても良いと思う。	外 部 評 価 点	
(小項目)	(重点項目) a. 北大阪ミュージアム・ネットワーク	指標・目標	事業実施件数 1回/年	9					
		実績	事業実施件数 2回						
(小項目)	(基本事業) b. 他機関との連携事業	指標・目標	事業実施件数 1回/年	7					
		実績	事業実施件数 1回						
(中項目) ②学校教育との連携									
(小項目)	(重点項目) a. 学校教育による利用の促進	指標・目標	学校団体見学校数 28校 出前授業件数 7校 教員への研修 1回/年	9					
		実績	学校団体見学校数 28校 出前授業件数 7校 教員への研修 1回						
	(基本事業) b. 学校教育への支援	指標・目標	設定していない	8					
		実績							
(中項目) ③人材育成									
(小項目)	(基本事業) a. 実習・研修等の受け入れ	指標・目標	実習受入13校・人数22人 インターンシップ人数 1人 JICA研修受入人数 5人	9					
		実績	実習受入17校・人数24人 インターンシップ人数 2人 JICA研修受入人数 5人						